水無月 10詠

蝉

たなか踏基

蝉時雨
刹那の命
待たせたり

朝蝉や
静寂無想の
牧の原

逢引の
夕蝉なきそ
樹の梢

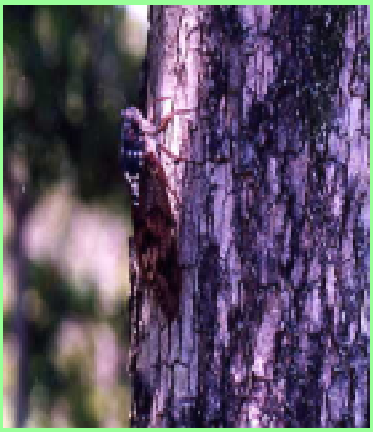
みんみんの
焦がれつ翅の
透きとおる

愛憎の
瀬に百蝉や
石青き

三峰や
蝉に涼しき
狭霧かな

秩父路に
熊蝉の降る
音の魔性

悼むかに
嶺々(ねね)臥す蝉の
三峰講



束の間の
艶夢貪る
四方の蝉

日がな鳴くや
愛戯交わさで
思慕の蝉

水無月 10詠

空蝉

たなか踏基

とりついて
空蝉かわく
峰の草

滴々と
透くうつせみの
雨水かな

空蝉も
生きる証の
突起かな

ぴったりと
空蝉抱く
樹々の瘤

恋やつれ
縋りし蝉の
もぬけがら

蝉のから
爪痕固き
梢から

空蝉や
四肢に虚空の
冷気掴む

寂しがる
うつせみ癒す
樹液かな

祈る風
外人墓地の
蝉の殻

十字架に
うつせみの痕
濱の墓